

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/1階つる、2階かめユニット)

事業所番号	2793000197		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら東淀川		
所在地	大阪府大阪市東淀川区東中島 6-8-12		
自己評価作成日	令和4年9月3日	評価結果市町村受理日	令和4年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年9月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2021年より今日に至るまで、新型コロナウイルス感染予防の徹底を実施しながら施設内で楽しんで頂けるように企画をしています。2022年1月は回転寿司を実施いたしました。コロナ禍で外食も行けずいたので皆さん大変喜んでくださいました。また、食事に重きを置いたケアをしています。給食係を各ユニットに配置して、メニュー作り・季節の物を取り入れるようにしています。毎日、就寝前には甘酒を飲んで頂いております。また、畑もご家族様がお手伝いに来てくださったおかげで夏野菜が沢山採れました。秋には、サツマイモが収穫の予定です。2022年は101歳が2名、100歳が1名と高齢になりますが、日中は、塗り絵・歌を楽しんでいます。家事もできる範囲で、参加して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の運営法人は、東証プライム上場企業スターツのグループ企業で「その人らしさ」を何よりも優先し、職員全員の想いとして「いつも笑顔で いつまでも住み慣れた地域で」を常に念頭に置きながら、利用者一人ひとりに寄り添い心の通うサービスの提供に心掛けている。当事業所ではコロナ禍の中、地域との関りを大切に考え、普段の食材を地域の商店で購入している。「きらら東淀川」は、食を中心にしたケアがされていて、季節に合わせた食事が提供されています。事業所にも畑があり、色々な夏野菜が収穫できる。夏の食事には塩分・ビタミン補給を考え利用者それぞれに合わせた食事が用意されている。100歳を超え、食欲のなくなった利用者には好みの食事を提供し、回復し元気に杖をついて歩いている例が3例もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を行い今日一日理念を踏まえた具体的な行動を職員一人ひとりに確認している。	「私たちは『地域社会の一員』であることを自覚し、人々との“心”のふれあいを大切にします」等、三つの運営理念を毎朝、いつも笑顔でいつまでも住み慣れた地域で「その人らしさ」を大切に暮らしていけるよう、の想いを込めて唱和している。運営理念の他に、月々の行動目標も立て、朝礼時に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食料調達は地域の商店から調達しています。 自治会で開催される夏祭りには企画会議から参加させていただいています。がコロナ禍で困難にはなっています。	コロナ禍以前は、自治会の夏祭や色々な行事に企画の段階から参加し日常的に交流していたが、今は自粛の状態にある。コロナ禍以前は、食材の調達にスーパーマーケット等を利用していたが、現在は近隣の個人商店を利用し、交流を深めるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修等を、少人数で包括支援センターさんの力を借りて実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実践できていないが、詳細は手紙等でお知らせしています。	運営推進会議はコロナ禍のため、書面により開催している。利用者の状況・職員の状況・事故報告・避難訓練等活動報告・面会外出についてを運営委員に報告し意見を求めている。結果は、運営推進会議委員及び家族全員に配布している。当事業所ではコロナがある程度落ち着き次第、少人数にしてでも開催をする計画でいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと連携を密に図っている。	地域包括支援センターとは運営推進会議で、色々と指導を得ているだけでなく、地域包括支援センターでは、地域のケアマネージャーを支援し連絡会や研修・情報交換も行っている。当事業所でもサポーター研修を受けるなどの支援を受けている。	今後とも、地域包括支援センターの研修システムを有効に活用し、事業所のケアサービスの向上に継続的に取り入れる事を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を発足し年4回以上の研修を開催している。	身体拘束廃止のための指針を作成し、3ヶ月に一度委員会と同時に研修も行っている。委員会では議事録を作成し、職員全員に会議内容を確認、周知徹底を図っている。身体拘束をしないケアの実践についての研修では、スピーチロックや身体拘束例外3原則等の研修を行い、理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し関心と理解を深めています。アザや身体の異変があった時は、写真や記録に残し原因を明らかにして見過ごすことの無いようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し関心と理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明と時間をかけた契約を心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見、苦情箱を設けています。運営推進会議にて質問等のあった場合は丁寧な説明を心がけています。	利用者とは日々の会話を通して、利用者家族とはコロナ禍以前は、運営推進会議や来訪時に意見要望を聞く機会を設けていた。現在は、電話や書面を通して聞き出している。「コロナ禍の今、利用者の部屋や現在の様子だけでも見せる工夫がほしい？」の意見が出て検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を実施しています。 年2回の懇親会を予定しています。	全体会議を月に一度行い、口腔ケアに関する研修等も含めて行っている。提案内容には、行事内容や業務改善の意見がある。誰もいない部屋のエアコンは、こまめに切る等節電の意見がある。職員の意見をよく聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・賞与に関しては個人別にフィードバックしています。 会社として、いろんな取り組みを評価して個人に賞を与え、やりがいを持てるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として毎月研修を実施。外部研修の推進受講料補助等している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会が コロナ禍で中止になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや本人の気持ちを理解すべくコミュニケーションに時間をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調の変化やご様子の電話連絡は随時実施しております。毎月1回は一ヶ月の状況報告を書類にてご報告させて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細やかにヒアリングを実施し気持ちの変化や体調の変化に合わせて迅速な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様から教えを乞うことを念頭しており、協力し支えあって生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様にホームでの様子や体調についてお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご親戚、馴染みの方の訪問を面会時間を決めずに訪問をさせていただいています。	コロナ禍以前は利用者それぞれが、家族の墓参りや法事に出席していた。馴染みの仲間が訪ねてきたりもしていた。7月末にクラスターが発生するまでは、面会室を設けて30分と時間は限定していたが、自由に面会ができるようにしていた。今でも電話の取次ぎや、手紙・ハガキの代筆は職員がしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようさり気なく声をかけさせて頂いています。また、必要な事を居室内で完結しないよう極カリビングにて過ごして頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係終了後1か月後に電話連絡しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい場所や食べたい物の希望をお聞きして実現できるよう支援させて頂いています。職員のみで実施が難しい時はご家族様にもご相談させて頂いております。	利用者本人がどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は、毎日の関わりの中で生活歴を参考にしながら、食事の希望や趣味等を申し送りノートに書き出し職員間で共有している。表現の難しい利用者には、家族に聞いたり利用者の表情を見るなどして、出来るだけ意向に添った支援をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行きたい場所や食べたい物の聞き実施できるよう支援させて頂いている。また、入居日初日はご本人の食べたい物や好物を用意しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間や就寝時間に制限を設けず自由に過ごして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や毎月実施されるカンファレンスにて反映している。	介護計画の期間は一応長期計画を12ヶ月、短期を6ヶ月としている。変化が起きた時には、本人・家族にも要望を聞いたうえでかかりつけ医の意見を聞きながら、サービス担当者会議で支援経過をもとに話し合い、臨機応変に介護計画の見直しを行っている。家族の承諾も得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を丁寧で正確な情報にできるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	観劇に出かけたり、近隣の飲食店に出かけたり大阪城にドライブに出かけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	喫茶店や飲食については地域のお店を利用。神社や散歩には近所を利用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科は1か月に2度の往診あり。また、急な体調不良には24時間オンコールにて対応させて頂いています。	かかりつけ医は入居前に説明を受け理解の下入居を決めている。協力医の内科・精神科は月2回、歯科は希望者のみ週1回歯科衛生士同行で訪問診療を受けている。眼科・整形外科・糖尿内科などには基本家族同行で受診している。1名は訪問リハビリを受けており、週1回看護師の健康観察が行われ24時間オンコールの連携をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問と体調の変化についてはホーム側からの連絡を24時間オンコールにて対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中や日々の訪問にて病院の連携室とのコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の為の指針を示しています。重度化した際には早期に家族様と十分に話し合いを重ね医療関係者とチームで支援できるよう取り組んでいる。	契約時に利用者・家族に重度化や看取りについて、指針で説明して書類を作成している。利用者の体調の変化時には医師より家族に、状態を説明をして確認書類を交わし、医師・看護師・職員・関係者と連携して希望に添える支援に取り組んでいる。看取りマニュアルを用意し、開設以来多数の看取りの経験により知識を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生マニュアルに従い訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間3回以上の研修を実施しています。	災害マニュアル連絡網を整備しハザードマップの確認をしている。年2回(3月・5月)に火災・通報・避難訓練をして、新たに水害訓練も実施している。避難時に必要な利用者の顔写真・薬・身体状況・認知度・特徴を記載して書類を整えている。水・ご飯・缶詰・ラーメン・カセットコンロの非常物品を用意し、近隣在住職員に災害時対応の確認をしている。	年3回の災害時避難訓練を実施して課題を確認し、災害時の対応に取り組んでいる。しかし、災害時には近隣住民との協力体制をとられることが求められる。運営推進会議や交流時に、協力の依頼をするなど、協力体制を築いてかれる事が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し配慮する言葉かけや対応を実施させて頂いている。	年間研修計画で接遇研修を実施しマニュアルを作成している。利用者の人格を尊重して排泄時に大きな声を出さない・入室時は声掛けをしてノックをしている。皆で共有して、人格を傷つけないよう対応し不適切な言葉遣いの場合は報告書を作成して話し合い、都度注意したりしている。個人情報の書類は施錠できる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご希望をお聞きし自己決定できるよう務めさせて頂いている。1日に1回はお一人、おひとりゆっくりお話しさせて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の昔からの生活、環境を把握し個人にて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様、家族様からの情報を元に要望に応じ対応させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食事や外食の提供。また、食材選びなど楽しい食事ができるよう心掛けています。	職員によりカロリー計算したメニューの食材を、近くのスーパーや肉屋・魚屋で購入して、職員が順番で調理し同じ物を食している。利用者は皮むき等で参加している。お節や行事食を取り入れ、ホームで回転寿司の実演を味わったり・お団子やパイのおやつ、誕生日にはケーキを作り祝っている。食べる事を大切に食欲の落ちた利用者には好物を提供し、食べる力を得、100歳過ぎの3名の利用者は元気である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500カロリーを目安に食事を提供している。水分も1500CCを目安にしている。お茶や牛乳など制限がない限りは自由に選び飲んで頂いています。就寝前には甘酒を飲んで頂いています。給食係を配置しメニューの見直しや季節の物を取り入れるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が週に1回訪問するのでその際に一人ひとりに合わせて、クリーニングしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレへの誘導、利用を促しています。	リハパンにパット・オムツ利用者と介護度の高い利用者が多く、日中はパターンを把握し様子を見て声掛けをしてトイレ誘導している。夜間は安眠を優先してパットの工夫をしたり、定時見回をして利用者の様子でトイレ誘導する等、その人に合った排泄支援をしている。夜間のみポータブルを利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	甘酒やココアや繊維の多い食材を選んでメニューに取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その時の状況や希望により入浴している。拒否が続いた場合は声かけや様子を見ながら入浴して頂いています。	入浴は週2~3回利用者の様子を見て午前・午後に入浴してしており、シャワーにする人等、柔軟に対応している。重度の利用者には2人対応で支援し、お湯は毎回取り換えている。入浴剤を使ったりゆず湯・しょうぶ湯等、季節の楽しみも取り入れている。好みのシャンプーを使っている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や換気、温度等に配慮し本人様が眠くなった時に就寝を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬カートを使用时間違えないよう支援しています。時には薬剤師によるお薬の説明を受けたり情報の理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、調理も無理強いせずできる範囲で実施できるよう対応させて頂いています。余暇の過ごし方も本人様の希望にて自由にお過ごし頂いていおります。ぬり絵や歌を楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は自粛をしています。ドライブを実施しています。	外出は制限されているが、大阪城にドライブに出かけ車窓から花見を楽しんだり、事業所敷地内の菜園で季節野菜の収穫を楽しんでいる。毎日DVDで「ごぼう体操」をしたり、歌を歌ったり・トランプ・カルタなど五感の刺激を得られる支援をしている。家族と受診に出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に管理して頂いています。コロナ禍で買い物も自粛していますが、お弁当などを数種類購入して、ご自身で選んでいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきで暑中見舞いや年賀状を作成しています。電話も自由にお使い頂けるようリングにて設置させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は安全に利用できるよう配慮しています。またソファでのお昼寝も自由に行えるよう対応させて頂いています。	共同空間はサーキュレーター・扇風機を使い窓を開放し定期的に換気をして、風通しよく空調管理をしている。壁には利用者の習字や金魚の作品を貼り、季節の作品を掲示している。日めくりカレンダーもあり、テレビ・本箱・テーブルやソファで昼寝をしたり、寛げる空間を設けている。清掃は職員が毎日欠かさずし清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子等を配置し思い思い過ごせるよう対応させて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様のご希望をお聞きし家具等を配置させて頂いています。	居室入り口には利用者の塗り絵を掲示し、判り易くしている。ベッド・エアコン・カーテン・クローゼットが用意しており、利用者はテレビ・チェストなど好みの家具を持ち込み、仏壇を置き、家族や好きなスポーツ選手の写真を飾り寛げる部屋作りをしている。清掃は職員がし、できる利用者はワイパーで清掃している。職員の助言を受けて整理・整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの利用や洗面は自由にお使い頂けるよう衛生的に管理させて頂いております。		